

[プレスリリース]

2025/9/20

戸谷成雄個展
視線体：半彫刻

2025 年 10 月 18 日（土）－ 11 月 22 日（土）



戸谷成雄, 視線体：半彫刻 1, 2025, wood, acrylic, 61.5x40.5x33.5cm

シュウゴアーツは戸谷成雄の新作個展「視線体：半彫刻」を 10 月 18 日から開催します。戸谷は「視線体」と名付けたシリーズに 2019 年以來取り組んできました。

2019 年 戸谷成雄「視線体」展：<https://shugoarts.com/exhibitions/e00445/>

2022 年 戸谷成雄「視線体：散から連 連から積」展：<https://shugoarts.com/exhibitions/e00660/>



戸谷成雄, *視線体*, 2019, wood, wood ash, acrylic, variable size, 9 pcs

今回披露する「視線体：半彫刻」では彫刻に「半」という言葉を付しています。これはどのような彫刻的思考に支えられたものなのでしょうか。

ギリシャ時代の輝かしい彫刻の時代の前には、レリーフ（浮彫）の存在があり、「レリーフから彫刻へ」という連続性を前提とした展開をしている、とするのが西洋近代彫刻史における通説とされています。

戸谷の「半彫刻」は、その流れを逆転して、「彫刻からレリーフへ」と向かいます。ただし戸谷は前ギリシャ時代の原始的なレリーフに戻ることを考えているわけではありません。

戸谷が「半彫刻」で企図しているのは、半分見えない不可視の領域を持つような彫刻のあり方の可能性です。



戸谷成雄, *視線体ー積*, 2021, wood, wood ash, acrylic, 142x171x201cm (a set of 13 pieces)

いわゆる「彫刻」というものを、自然と連なったレリーフ的な状態を脱し、自然から切り離されて「自立」した求心性のある姿・形だとします。そうすると戸谷の言う「半彫刻」は、分離した状態から再び自然を志向し、自然との「共生」を図ろうとする姿・形とも言えるでしょう。

原始的なレリーフは、背後に連なる見えない世界を前提とするものではありませんでしたが、「半彫刻」は見えない世界を暗示し、不可視の領域を想定している点において、原始的なレリーフのあり方とは一線を画しています。



戸谷成雄, *POMPEII・79 (Part 1)*, 1974/1987, concrete, 15x60x60cm, 45x45x170cm, 4pcs

戸谷成雄は五十年前 27 才のとき、1974 年に「POMPEII・79」(<https://shugoarts.com/works/15992/>)を発表して以来、極東の日本において一貫して独自の彫刻観に基づく大きな物語を追求してきました。今回の「視線体：半彫刻」では、戸谷成雄の最新の彫刻的冒険を皆様に披露します。

また、この「視線体：半彫刻」への入口を指し示す作品として、戸谷が 1992 年に制作した代表作「落下」と、2001 年に発表した大作ドローイング「森の視線」を併せて展示します。今展覧会をご高覧頂ければ幸いです。

2025 年 9 月シュウゴアーツ



戸谷成雄, 落下, 1992, wood, ash, acrylic, wire, 17x60(D)cm



戸谷成雄, 森の視線, 2001, Japanese ink on Japanese paper, 305x364cm

関連文献

・榎木野衣「彫刻の根はどこを這うのか—戸谷成雄と森・水源」出典：「戸谷成雄 森—湖：再生と記憶」

市原湖畔美術館発行図録、2021 年：

<https://shugoarts.com/library/toya-shigeo-8/>

・戸谷成雄インタビュー動画、秩父アトリエにて、2016 年 10 月：

<https://shugoarts.com/library/toya-shigeo-2/>

・戸谷成雄「ロダンのいない彫刻史 第 1-3 回」芸術新潮、新潮社、2023 年：

<https://shugoarts.com/library/toya-shigeo-7/>

戸谷成雄 視線体：半彫刻

会期 2025 年 10 月 18 日(土) - 11 月 22 日(土)

オープニングレセプション 10 月 18 日(土) 14:00-17:00

会場 シュウゴアーツ

開廊時間 11:00-18:00 日月祝休廊

戸谷成雄 Biography

戸谷成雄(1947 年生)は、ミニマリズムやもの派のムーブメントによって解体された「彫刻」の再構築を試み、1970 年代より一貫して人間の存在認識に通じる彫刻の原理と構造を追究してきました。洞窟壁画を経て、ギリシャ彫刻に始まりジャコメッティに至る西洋彫刻と、円空に始まり昭和初期を生きた彫刻家橋本平八までの日本における彫刻との双方の成果を受け止めつつ、「彫刻は視線の集積である」という独自の彫刻観に至ることで、もの派を越えて瞠目すべき彫刻群を発表し続け、日本の彫刻家として最も重要な存在の一人と位置付けられています。

主な展覧会に、1988 年ヴェニスビエンナーレ日本館、1993 年アジア・パシフィック・トリエンナーレ（ブリスベン）、2000 年光州ビエンナーレ（アジア賞受賞）、近年では 2022 年から 2023 年にかけて長野県立美術館と埼玉県立近代美術館にて巡回回顧展。

シュウゴアーツ プレス担当：藤田清

106-0032 東京都港区六本木6 丁目5 番 24 号 complex665 2F / 03-6447-2234

email: info@shugoarts.com website: <https://shugoarts.com/>